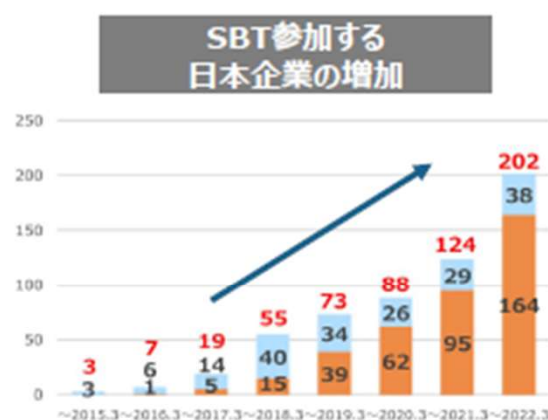


# 農林水産業・食品分野における温室効果ガス（GHG）削減に向けたアクション

## 外部環境

### サプライチェーンGHG排出量の削減の流れ

SBT, CDPなど環境イニシアティブへの参加企業の増加  
スコープ3のGHG削減が徐々に求められる見込み  
代替肉など、GHG低排出製品への代替リスク



### 農業現場での対応の難しさ

1. 専門性を要する、複雑なサステナビリティルール
2. 高額な対応費用
3. GHG削減努力が反映されにくい算定ルール



#### 算定ルール例：乳用牛のメタン

現状：乳用牛は、0.11CH4トン/頭という、業界平均値で単位が固定されている

課題：ゲップを抑制する技術は研究開発されているが、算定ルールに反映されていない



農林中央金庫

## 取組内容

### 1. GHG計測のサポート

アスエネ株式会社など、GHG関連サービスを提供できるGHG関連企業と複数連携し、お取引先のニーズに応じたサポートを実施

- ・スコープ1～3のGHG排出量の算定
- ・CDPやTCFD, SBTといった環境イニシアティブへの対応のコンサルティング・アドバイス業務
- ・GHG排出量の第三者保証

### 2. 生産者向けのGHGコンサルティング

SBT企業や、サステナビリティ意識が高い顧客を有する企業と直接取引する農業法人・生産者向けに、気候変動対応の戦略策定サポートやGHG計測など、**気候変動コンサルティングを提供**

### 3. 削減努力が反映される算定ルール作り

官民間問わず、様々な主体が研究開発しているGHG削減技術について、農研機構と連携して、**削減努力が反映される算定ルール作り**

#### 算定ルール例：乳用牛のメタン

現状：乳用牛は、0.11CH4トン/頭で単位が固定

理想：「この飼料を与えた牛は、0.05 CH4トン/頭で算定できる！」

## 脱炭素プロジェクト(MABIプロジェクト)を通じた協働体制

### ◆ Measurements of GHG in Agriculture and Better Implementation

～農業分野におけるGHG計測と、よりよい実践に向けて～

